



ただら

第21号
(2023年7月発行)

島根学習センター内
島根同窓会

発行者 竹下靖彦

<http://oushimaned.main.jp>

E-mail: info@oushimaned.main.jp



(第11回通常総会ご出席の皆さん)

第11回通常総会を開催しました

3年続いた新型コロナの感染は国内だけでなく、全世界に蔓延し多大な経済損害と人的損失を招きました。ここにきて政府は感染が減少したとして、第2類から第5類へと引き下げ、国の責務を放棄するに等しく、個人の責任となりました。

この中で、昨年同様対面方式にて、第11回通常総会を開催しました。総会放の出席者は委任状を含めて38人(52.8%)で、当日は13人の会員が出席しての開催となりました。今総会の主たる任務は、①2022年度事業報告、②2022年度決算・監査報告、③2023年度事業計画、④2023年度予算、⑤任期満了に伴う役員の変更でした。

総会に際し第16回市民公開講座「なぜ!国は『マイナンバー保険証』を普及させたいのか」～保険証廃止でマイナンバーカード取得が実質義務化～が島根県保険医協会事務局長塩毛浩史さんの講演があり、同窓会員以外に市民も参加され、政府の狙いは患者負担増、医療や社会保障費の抑制で医療や介護の負担増が進められるばかりか、病歴や個人情報の流出の拡大が懸念される。

総会には出口新センター長が来賓あいさつを行った。

現代のシャーマン

学習センター

所長 出口 顯



センターの所長に着任してから初めて知ったのだが、放送大学の卒業生には、何度も放送大学に再入学され、学び

を継続する方がとても多い。なかには6コース全てを修了した方たちもいる。その人たちは、学ぶことに魅入られた、あるいは学問の神に見出され取り憑かれた方たちにみえる。

文化人類学や宗教学では、神々や異界の精霊に召命されたり、憑依される人のことをシャーマンと呼ぶ。宗教学者ミルチャ・エリアーデの古典的著作『シャーマニズム』によるなら、シャーマンには二つのタイプがある。

一つは、病気がちな体質の人が神に召命され、冥界へ飛翔し、病気を治療する薬草の知識を受けて貰ったり、病気になった人の魂を冥界で見つけ、現世へ連れ帰る「脱魂型」。もう一つは、神や霊の方が人間の側にやってきて憑依する。それによってシャーマンは占いを行ったり、人間と死者との間の交流を媒介する「憑依型」。一方は人間が異界に飛んでいく、もう一方は霊的存在が人間の側にやって来る。どちらにもしても、神や精霊との結びつきやコミュニケーションによって、シャーマンは特別な能力を得る。

80歳、90歳になっても学び続け大学を卒業できることは、私のような凡人からすればやはり学問の神に魅入られた特別な能力であり、現代のシャーマンと言えよう。

しかしシャーマンがシャーマンであるのは力を活用するからである。では、現代のシャーマンとも言える放送大学卒業生はどのように力を活用できるだろうか。シャーマンになる人物は異界や神霊との交流により、自らが異なる人格・存在に変貌する。同じように学ぶとは、自らが変化しそれまでとは異なる存在になるということである。それにより世界や周囲との関わりも変わり、新たな視野を得ることができる。

学ぶことによる変貌とそれがもたらす楽しさを、皆さんには同窓会の活動を通じて深めると共に、広めていっていただければと思う。

わが国の政治は変ではないか？

会長 竹下靖彦



第11回通常総会も会員諸氏のご協力により、提案しましたすべての議案が承認されました。厚く御礼申し上げます。

ます。

今年の総会記念市民公開講座は、健康保険証の廃止などを定めたマイナンバーカードについて、日々その実情を詳しく把握されている島根県保険医協会事務局長塩毛浩史氏を招き、カードの危険性について実例をもとに伺った。

コロナ禍での国会論戦やTV、新聞の報道番組を拝見すると、私からすると悪法と思われる法律が次々と「新しい戦前」の翼賛政治化して法律に反対する市民や専門家の批判をよそに審議時間も拙速でまかり通っている。

悪法は①軍拡財源法、②入管法改悪法、③マイナンバー法等改定法、④軍需産業支援法、⑤原発推進等5法（GX電源法案）⑥LGBT理解増進法である。国民の過半数が反対しても、数の力で強硬突破の暴挙。

なぜこんなことがまかり通るかといえば、その根底は腐敗の憲法違反”政党助成金”で、赤ちゃんからお年寄りまで1人250円を支持しない政党に強制的に献金させている。政党財源を国費から受取ることで、国民の声を聴かずに官僚と結託して、共に憲法をないがしろにする悪法を次々と成立させているからであろう。

でもそんな議員を選んでいる国民（私は支持しない）である。怒りを忘れた日本人である。そんな中、総理の政務秘書官に自らの子息を税金で雇用した挙句に、昨年末に首相公邸で親族らを招き、忘年会を開き、挙句に赤絨毯の階段上でパフォーマンに興じている。

総理は親族が公邸で写真撮影を報道後に知ったと説明したが、自らもパジャマ姿に素足でしっかり中央で映っていた。ことわざに「嘘も百篇言えば真実となる」ことを示している。

私は在職中に、当時野坂官房長官時代に古い首相官邸招かれたが、その折赤い階段は昇らないでといわれ、横の狭い階段を昇って官房長官室に招かれたことを思い出した。勿論階段も厚いふわふわした赤い絨毯が敷かれていました。

官邸は税金で建設されていて、私的空間ではない。”これだから政治は変だ”と言われる。

令和4年度第2学期

学位記授与式が開催されました



令和4年度第2学期学位記授与式が、3月26日(日)午前10時40

分から島根学習センター3階第1講義室で開催されました。第2学期は教養学部で19名が卒業され、本授与式には9名の方が出席されました。

最初に田坂島根学習センター所長の代理で小仲事務長より学位記が卒業生修了生一人ひとりに手渡されました。

続いて、6コース全て修了された島根学習センターの名誉学生3名の方々に所長表彰状が送られ、センター所長からの式辞を小仲事務長が代読されました。

この度卒業された方を見るとコースが多岐にわたっています。また今年度は島根学習センター内で3名の方々が6コースをすべて終了され名誉学生となりました。

先ほど所長表彰をさせていただきましたが、高い志を持ちながら精力的に学び続けられましたことは、後輩たちのよきお手本となるとともに島根学習センターにとりまして大きな喜びであり、表彰された皆様のお名前をに銘板に記しこれを島根学習センターの図書視聴室に掲示します。名誉学生の皆様には心より敬意を表します。

さて世界に目を向けますと、ウクライナへのロシアへの進行、地球温暖化や気候変動、さらに先月6日のトルコ南部で起きた地震など先の見通せない状況が多発しています。

一方で日本に目を向けて見ますと、少子高齢化、高度情報化、グローバル化など私たちを取り巻く社会は急激に変化し、多様な価値観の中、課題も数多く存在しています。

このような状況の中において生活していく上で、一人ひとりが大切にしなければならないことは次の三つであると思います。

一つ目は思いやりの心と豊かな人間性です。困難にぶつかったとき人と人とのネットワークで解決できることも多くあります。人への思いやりが他の人を助けるだけでなく、自らをも幸せにします。



二つ目は、なにごとにもあきらめず最後まで粘り抜く心です。次々と苦悩が生まれ挫折や失敗もあるでしょう。その経験が自分を強くしてくれると信じて、粘り強く挑戦し続けることを心に刻みながら取り組むことが重要であると思います。

三つ目は地域貢献をしていくことです。人はみな家族や会社・地域などから支援されています。たとえ小さなことでも、一人ひとりが自分ができることをしっかりと社会に返していくことを実施していただきたい。これらのことを常に意識しながら一人ひとりが自分自身で考え、意見を持ちながら一步一步進んでいくことが大切です。放送大学で学びを通して身に付けられた確かな知識と多様な学力は、課題解決への道標となり、足元を照らす光にもなります。本日学位記を受けられた皆様は自分自身の力を信じて大いに活躍し豊かな人生を歩んでいただきたいと思います。



次に来賓を代表して放送大学島根同窓会石川副会長より卒業された皆様へ以下のようなお祝いの挨拶がありました。

今日は、卒業にあたりまして、禅の公案(問答のこと)に「瑞巖主人公」と題する有名なエピソードがありますのでこれを紹介して、お祝いの挨拶とさせていただきます。

中国、唐の時代に瑞巖師彦という禅僧がいました。瑞巖は毎日坐禅をする中で、自分自身に「主人公」と呼びかけ、自身で「ハイ」と答え、さらに言葉をついで「起きているか。だまされるなよ」「ハイハイ」と自問自答したと伝えられます。これは「だまされるなよ」が、「自分を見失うな」という意味で、もうすこし分かりやすく言うと「煩惱に振り回されるな」、「欲望のままに生きるな」ということになります。

「ふりまわされない」という生き方は、自己と他己を平等に見つつ、「自分を信じ自信を持って

生きる」、あるいは「自覚して生きる」という意味でもあります。

皆さんのこれからの長い人生にも予想できないこと、思い通りにならないことが、あると思います。そのような場合「振り回されない」ということを是非、思い起こして頂きたく思います。そのことを切に念じて、皆さんの卒業に当たっての、私の花むけの言葉といたします。

本日はまことにおめでとうございます。

(石川直樹 記)

令和4年 第2学期

卒業を祝う会を開催



令和5年3月26日(日)、スティックビル4階講義室にて、令和4年度第2学期卒業を祝う会を同窓会主催で開催しました。今回は卒業生9名に参加していただきました。

コロナ禍のためここ数年は食事会を実施していませんでしたが、今回は何とか食事会も開くことができほっとしました。昼食は黙食となりましたが、それでも和やかな雰囲気で開催することができました。

冒頭、竹下会長より自身の経験を交えた話があり、学習環境も変わり大変だったと思います。放送大学は、年配者が多く在学する、世界に類のない珍しい大学です。

そういうなかで補助金を受けて大学を卒業されたことで、何か地域に貢献できることはないかということを探求していただきたいとお祝いの挨拶がありました。

今日は、皆様がどのような学習をして今日に至ったかをお話いただけたら幸いです。

続いて卒業者の皆様から一言ずつ感想をいただきました。生活と福祉コースを卒業された方は「2回目の卒業だが、試験が自宅となったが、センターの方が緊張感があってよかった。」、同じく同コースを卒業された方は「20年くらい前に入学したが、なかなか仕事との両立が難しかった。オンライン授業とかインターネットを使っ

た試験はやりやすかった。20年前はセンターに来ることも大変だった。」

心理と教育コースを卒業された方は「10年前に職員として放送大学にかかわった経験から放送大学に魅せられて、最初は人間と文化コースに入ったが、仕事の関係から心理と教育コースに変更した。入学のきっかけとなった会長が名誉学生となられたタイミングにまた今回遭遇したことは忘れられない日になった。」。同じく心理と教育コースを卒業された方は「当初は学士の資格が欲しいという目的で入学した。面接授業が印象的だったので、県外にもよく出かけた。自分のリフレッシュにもなったが、コロナの間は十分ではなかった。特に学生仲間との出会いが楽しかった。これが活力になっていた。」、生活と福祉コースを卒業された方は「最初やりたいことや目標がなく、ただ学士の資格が欲しいと思って入った。いろんな人と出会い仕事をしたりするなかで、人とかかわる仕事をしたい、誰かのためになりたいと思うようになり県職員になった。ただ、思ったより残業が多く思うように勉強ができなかった。けれども、人生で居場所がないような人がいたときに逃げ場所を作れるようになりたいというのが次の目標である。」その他、紙面の関係で全員の感想を載せきれないのが残念ですが貴重な感想をいただきました。

最後に、客員教授の高須先生、藤島学友会長からお祝いの言葉をいただき和やかなうちに祝う会を終えました。(石川直樹 記)

第11回通常総会を開催



3年続いたコロナ禍にあつて、行動規制が緩和され第5類に引き下げたとはいえ、新たな罹患者が報告される中、今回も三密対策を行いながら、学習センター3階第1講義室を借りて開催した。

総会を記念して恒例の第16回市民公開講座は、「なぜ! 国は『マイナンバー保険証』を普及させ

たいのか」～保険証廃止でマイナンバーカード取得が実質義務化～と題して、開業保険医で組織されている県保険医協会事務局長の塩毛浩史さんを講師に招き、市民の方も参加で定員を確保して開催した。

講演内容は、特にマイナンバーに保険証を紐付けることでの危険性を主に、政府が急ぐ理由として、①マイナンバー保険証普及の目的は「医療の適正化(抑制)と「成長戦略」、②マイナンバーカード(マイナンバー保険証)の取得は任意のため、紙の保険証廃止となるため、よく考えて判断する、③あらゆる分野でデジタル化(DX)を推進、④医療機関での混乱と医療情報の漏洩が多発していることの問題などが、国内、県内の医療機関で発生している事例をもとに導入拙速への危険性を対案され、会場より質問と導入が必要との意見が出された。

通常総会は、仙田理事の司会にて進められ、元副会長竹下隆さんの逝去に黙とうを行って、議長に石川直樹さんを選出。来賓に4月より新所長に就任された出口顕さんから、「全国的に何度も大学に再入学され学びを継続され、中には全コースを終了され特別学生の称号を受けられた方に敬服し、学ぶことに魅せられ、神様に特別に授かった方だと感じます。今後は学んだ力を活用して周囲の人たちに教えることが重要です。」と挨拶された。

総会議事は提案された第1号議案から第5号議案迄はいずれも賛成多数で承認され、新年度の事業へと歩みだしました。総会の模様は別紙の議事録を送付しますので、ご一読ください。

(記：竹下)

学位記授与者の声

2022年度第2学期に学位記を授与されました19名の皆さんに、会報“たたら”にご投稿をお願いしましたところ、3名の方からご協力を戴きました。

紙上をお借りして厚くお礼を申し上げます

卒業に寄せて

～放送大学での「学び」に感謝～

松江市 北垣 幸久



放送大学に学んで13年になります。その間入学と卒業を繰り返し、3月25日には5コース目「人間と文化コース」の学位記授与式

に出席することができました。

学位記授与式・祝う会の後、同窓会長のご厚意によりアカデミックガウンと角帽着用で記念写真を撮っていただいたこともよい思い出になりました。

平成23年、授業科目「環境と社会‘09」の学びがきっかけで、「環境保全の啓発活動」に取り組む市民ボランティア団体「くにびきエコクラブ」へ入会、平成29年より代表(会長)として会の運営にあたっています。

活動目的を「環境にやさしい人づくり」とし、その手段を誰にでも親しめる劇に求め、脚本・演出・キャスト・音楽・映像・道具類のすべてを手造りで主に小学校や公民館で上演しています。

これまで、特に子ども達や市民に感動と共感をもたらした作品に「いわしの気持ち」があります。給食センターを舞台のこの劇で、「すべての生命に命があることを知り、食べ物への感謝、好き嫌いをやめて完食する子どもが増えている」などの嬉しい報告を受けています。

放送大学での学びは、このような活動に必要な「学問的な知識」を与えてくれています。

島根同窓会の皆様をはじめ多くの方々との出会い、家族の支え、すべてに感謝し、長く「学び」と「ボランティア活動」が続けられることを願っています

学位記授与式・祝う会に参加して

～卒業までの10年間を振り返る～

松江市 三島 俊行



37年間の公務員生活を終え、平成25年4月、縁あって、放送大学島根学習センターに事務職員として就職しました。自然の

流れで、放送大学に入学しましたが、歴史や文学

に興味があったので、「人間と文化コース」を選択しました。

ちょうどその頃は、この春めでたく名誉学生とされた竹下靖彦さんを中心に島根同窓会が設立された時期で、卒業後に同窓会に加入することも目標となりました。

4年後センターを退職し、身の振り方を考えたとき、頭に浮かんだのが、「保育士になろう」でした。3か月前に産まれた孫を保育所に預けるといので、「俺が世話をする。そのためには保育士にならねば」が動機でした。半分冗談、でも半分本気でした。

保育士試験を受験、運よく合格。しかし、孫を平日毎日私が世話をすることは現実的には無理、やはり保育所がベストと悟ります。でも、せっかく取得した資格を活かしこの年齢でも可能な仕事がないか。ハローワークに相談したところ、放課後児童クラブを紹介され、指導員として雇ってもらい、現在に至ります。

子どもの健全育成や子育て支援を目的とする職場であり、子どもとの付き合いや保護者、学校との連携を考える助けになればと思い、コースを「心理と教育」に変更し、児童心理、心理臨床、学校教育の関係科目を中心に履修し、この3月卒業しました。同時に「生活と福祉コース」に再入学しました。今後は、七人の孫の健やかな成長のため、何ができるか、何をしたら迷惑にならないか、よく考えながら応援していきたいと思っています。

最後のコースを無事に終了

松江市 竹下靖彦



最後の「心理と教育コース」を終了したことで、全科履修生として入学を許可され、14年間を経て、この度特別学生の称号を授与しました。これも一重に妻の支えと、協力によるもので心から感謝する次第です。

改めて顧みますと、私は働き手の父親を中学3年2月期末に当時としては珍しい交通事故で亡くし、進学を諦めて就職したことから新制中学卒業のため、全科履修生に入学することが出来ないことから、まず選科履修生で16単位習得を得てからの入学でした。

そのため選科履修生2年間で41単位を取得して、全科履修生として入学したことで、124単位

ではなく83単位で卒業要件を満たすことになり、4年を経ずに3年で到達したことで、次コースの科目を履修する「単位先取り」で、卒業できるように繰り返し、高齢になって記憶力低下に対応するためでした。

ところが、2015年11月に突如として「卒業要件の単純化と教育の体系化」のためと称して、既取得単位で卒業を認めていたにもかかわらず、2016年度から再入学生の卒業要件の変更で、再入学コース30単位ではなく新たに半分の16単位以上（既習得単位を含まず）としたことで、私の既取得単位57単位が切り捨てられました。

したがって、5コースと6コースは、僅か16単位ずつでの卒業となり、まったく卒業した感覚が喪失し、残るは特別学生の称号を授与されるための科目履修となりました。

少なくとも再入学の卒業要件は以前の30単位に戻して、学生の達成感を味わえることが必要と私は考えます。「学士の叩き売り」はやめるべきだと願っています。

アカデミック・ガウン着用で記念写真



島根同窓会では、2022年2学期学位記授与された会員（当日入会可）で、希望された方に同窓会からの祝いとして、アカデミック・ガウンを

着用して記念撮影し、贈呈することを決め開始しました。この事業は香川同窓会の取り組みが、昨年11月開催の中四国地区交流会にて報告され、授与された方から称賛されて授与式参加学生が増大したことで、学習センターからも称賛され、所長からガウンの贈呈を受けているので、各同窓会も取り組むことを提案された。この提案を受け島根同窓会も役員会にて協議の結果、ガウンを購入して取り組むことにしました。

今回は事前にご案内をしなかったことから、撮影会開催が案内できず、卒業を祝う会に参加された方に対し、記念撮影を行いました。これからは撮影を希望される方には無料にて実施します。また、過去に学位記を授与された方も希望される場合は、同窓会長までご連絡下さい。

放送大学学長表彰授与 の会員を訪ねて⑤

2022年度第2学期卒業 雲南市 山根 誠さん



出雲霊場第17番真言宗
峯寺よりの、青葉の風を感
ずるお庭には、梅雨の晴れ
間の日差しが眩しいほどに
輝いていた。

歴代名誉学生を称える盾
にその名を記され、島根学
習センターにおける6人目
の名誉学生となられた、山

根誠さんを雲南市のご自宅をお訪ねさせていただいたのは6月9日の、そんな梅雨の晴れ間の日だった。

—今日はお忙しいところ取材にご協力いただきありがとうございます。放送大学で名誉学生の方は、全国で800余名。島根では山根さん入れて8名です。

山根: そうですね。もう少し多いと思っていましたけど。

—名誉学生の方はこれから大幅に増えます。理由は新カリキュラム変更に伴い、再入学の場合は僅か16単位以上で卒業となるからです。名誉学生となられましたがその感想は如何ですか

山根: 名誉学生となったということで、同窓会からインタビューを受けるなどとは思っていませんでした。やっと終わったなという感じですね。

—履修計画はどうされていましたか

山根: はじめは授業科目の案内を見て、コレは面白そうだなという科目を選んで学んでいましたが、10年近くになってソロソロ卒業ということも考えました。

—勉強の仕方はどのようにされていましたか

山根: 最初の頃は教科書を読んでノートにまとめ、それから放送授業のビデオを観まして・・・そんな勉強のやり方では1時間位は直ぐに過ぎますので、勉強は夜が中心でしたが、こんなやり方では無理かナーと思いつつもやっていました。

—当時全コース終了は考えましたか

山根: だんだんやっているうちに、学ぶことが日常生活の一部となりました。10年を要して卒業

してで終わった
と思って、その
後1年間は何も
しませんでした。
でも学ぶこと
が日常生活の
一部になってしま
った私の生活か
ら、なにもしな
い日常に戻った
ら、何かリズム
となっていたも
のが取り戻せな
くて、徐々にま
たポツポツでも
やろうかという
考えになりました。
最初は、全コー
スの終了などい
う考えもなく、
グランドスラム
も知りませんで
した。



—放送大学という学びの場の存在を知られたのは、どんなところからでしたか

山根: 20歳の時に高校はNHK学園の通信教育を受け、24歳で卒業しました。その後身近に学べる大学があればと、いろいろな大学を探しましたが、田舎では特にスクーリング・面接授業を受けるのが無理かナーと思っていたところ、たまたま新聞かチラシかは忘れましたが、放送大学の存在を知り、私にとっては身近なものに思えました。

49歳で放送大学に入学するまでは長いブランクがありましたが、放送大学本部の方へ資料を請求して送付を受け、私の放送授業環境も整ってきたので、続けられるかどうかは迷いましたが、高校通信教育の経験もあり入学しました。

—山根さんの学ぶ姿勢というのは、自然体な感じがしますね。

山根: 学位記授与式の時に皆さんが言うておられた今後の目標などを聴いて、自分と比べてスゴイナーと感じました。

—名誉学生・全コース習得という思いは、何時頃から芽生えましたか。

山根: 半分 or 4コース目ぐらいからですかネ。他のコースの科目も、随分単位数が在りましたので、徐々に徐々にやっているうちに、また色々な事が分かってよいという思いで学びました。

—農業をしながら放送大学の学習時間は夜だったんですか。

山根: そうですね。夜しかないですね。一杯飲むのも控えてですね。そして雨降りの日とか、日曜日とか。試験1か月前くらいからは、少しは学習しなければという思いで「試験勉強」でしたね。合格点60点





を取ろうと思ったら、矢張り多少は勉強をしなければ無理ですから。単位試験1か

月前までには15章の内10章まではなんとかして終えるつもりでした。

一昔は過去問などの閲覧はありませんでした。その後学習センターでのファイルに閉じられた過去問を開いて見れましたが、その場だけでの閲覧に限られていました。その後カメラOK、コピーもOK、webで公開されるようになりました。ところで長く続けられた秘訣は何ですか？

山根: 何時までに単位を取らなければならないという制約もないし、面白そうな科目を取りながら、その積み重ねですね。外国語の単位取得は、英語・韓国語・中国語すべて初級の放送授業で取りました。滑り止めに面接授業で1単位取りました。

一勉強時間の確保というのは、農繁期はどうされていたのですか。

山根: 1月・2月の試験の時は農閑期でしたので、科目数を多く履修しました。農繁期の4月・5月は、田植えの準備などもあり、7月の試験の時には受ける科目も少なくしていました。沢山の科目を履修して、単位が取れなかった時には、会社を休んで再試験を受けることはできなかったですからね。試験時間が遅い時限の時なんかは、会社の仕事が済んでからギリギリに間に合わせるといこともありましたね。いくら気楽に学んでいるとはいえ、再試験を受けてもダメだと、金銭面からも勿体ないという思いがありましたから。

一学ばれたコースで、面白かった、又は難しかったという科目はありましたか。

山根: 「自然と環境」は農業に関係することなので良かったです。また天体に関することも勉強してみるとそれも楽しいなど興味が沸きました。一番難しかったのは「情報」ですね。合格を貰ったときにはラッキー！という感じでしたね。

一面接授業で楽しかったことはありましたか

山根: 松江市内のお寺巡りをした時です。また楽山の方へ行って池の周りを巡って外歩きをした。その二つがありますね。それから教室内の授業では、グループ討議した内容をまとめて発表する授業は良かったですね。講師の講義をただ聞くというようなのは、楽でよいかもしれませんが、矢張り外へ出たの課外授業が良かったですね。

一学びの中で、これこそ放送大学だとか、ある

いはコレが放送大学だと、感じられたことはありましたか。

山根: なかなか無いんですけど。国勢調査で私が調査員になっていまして、最終学歴記載の欄に「大卒」の箇所には○をした時で、改めて「自分は大学を卒業しているんだ」「放送大学を卒業したから大卒と認められるんだ」という感慨が沸きました。公に認めて貰えたという感じがしました。

一山根さんはこの言葉に心酔しているとか、座右の銘などありますか。

山根: 「自然体」というか、こだわりを捨てて、何ごとにも自然体で向き合う、自然体で暮らすということでしょうか。

一今後の計画はありますか。

山根: 現在は「イチゴ」と「トマト」を主にビニールハウスで栽培をしていますが、民間の通信教育での「野菜スペシャリストなんか？」というのがあり、半年でそんな資格が得られるというものです。資格とかは別にして、野菜に含まれる成分内容とか、料理方法とか、体にはどんなことが良いのかというようなことを学ぶ、その通信教育をこの間から始めました。近所の人が農業を始められ、「野菜ソムリエ」の資格を取られましたので、それもいいかなと思っています。

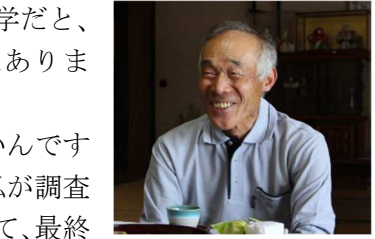
一ところでご趣味は何でしょうか

山根: 船ではなく磯釣りです・一面に広がる青海原を見ながら、釣糸を垂れる時ですかね。慌ただしく過ごす日常の事もひたすらその時には忘れて楽しく過ごせるから。

一島根同窓会も発足から11年目になり、今回アカデミックガウンを試着して記念写真を撮るという企画をたてました。卒業会員の人は無料ですから、撮影を希望されませんか。それでは最後に、島根同窓会に対するメッセージをお聞きたいと思います。

山根: コレといって特にありませんが、役員の方々が頑張っておられるなと思います。

一本日はご多忙の中、ありがとうございました。



一取材を終えて一

お勤め、農業、そして学びと、忙しい日常の中

での唯一のご趣味とは、いちめん広がる青海原を見ながら、釣糸を垂れるときだと話された山根さん。慌ただしく過ごす日常の事も些事も、そのときには忘れて楽しく過ごせるとのことだった。

「学ぶことが日常生活の一部となりました」・「農繁期には多くの教科を取ることはできませんからネー」。穏やかな笑顔を絶やすことなく淡々と、学びの日々を話されるそんな山根さんに比べて、穏やかさもゆとりもなく「卒業するんだ、卒業するんだ」と、がんじがらめの、必死の形相の思いで終えた私とでは、あまりにも対照的な山根さんの学びの姿勢だった。そして私はこんなやり方、こんな学び方もあったんだナー（自然体）と、その学びの違いをつくづくと感じ、そんな山根さんの学びの姿勢を、本当に羨ましく感じたことでした。

また国勢調査表に記載する事項の、最終学歴欄に在った「大卒」の番号に○をした時には、「嗚呼自分は大学を出たんだナーという感慨が興った」と話されたのが印象に残りました。

取材を終えての帰りには、山根さんが栽培されているという出荷のトマトを、ビニールハウスを見学させていただきました。

盛られた畝に整然と植わるトマト。「桃太郎」という品種のトマト 200 株だそうで水耕栽培で、一本一本が同じ高さにまで整えられ、通路には雑草も生やさずに、この一本一本のトマトの茎に注がれる、山根さんの愛情というものを感じました。1 株で約 50 数個が成実するとのことだ。

「ウワーこれは大変だ」「お勤めをされながら、こんな細かい農事のことまでも全部熟されながらの学び、そして全コース終了をされての名誉学生なんだ！」そんなことを強く思いました。そして悲壮感だけは人一倍に抱えていたものの実態は、本当に極楽トンボであった、そんな私の学びのことなどをつくづくと省（かえり）みたことでした。また帰り際にいただいた完熟のトマト「桃太郎」の美味しかったこと！

17 時から歯医者予約があるというお忙しい中を、大幅に時間オーバーとなりました。



社会貢献活動に 取り組む会員探訪⑤

出雲市 増原久子さん



「社会貢献活動に取り組む会員を尋ねて」として、前号「たたら」20号までは、地域において現在盛んに活動に取り組んでおられる方々を紹介してきた。

放送大学島根同窓会会員のなかには、年齢の関係で、健康上の理由で、あるいは家庭の事情によって現在は活動に至ってはいない、活動を続けることが出来なくなった方々が沢山居られる。

「社会の為に役立ちたい」・「人様のお役に立ちたい」・「御恩返しがしたい」という崇高な志を持たれながらも、そんな事情で一線の間を離れられた方々の事蹟が、埋もれたままで消えてしまうのは残念なことである。

然し本当は、そんな方々が居られたからこそ現在の私たちがあるのであり、諸先輩のそんな、豊富な人生経験や精神をお聴きして、そしてそれを伝えて残しておかねばならないという想いが興った。すなわちそれが諸先輩会員方々の、私達後輩に対する本当の、大きなメッセージでもあると思うからである。

今回第6回目は、出雲市において様々な分野で社会貢献活動をしてこられた増原久子さんをお尋ねした。増原さんは現在 88 歳。梅雨の雨がシトシトと濡らす庭を拝見しながら、楽しく歓談をさせていただいた。

—放送大学の存在をどこでお知りになられましたか。また本日は入学の動機、修士に入学のこと、それに社会貢献活動のことなどをお聞かせください。

増原: 私は出雲市の女性センターで長を務め、島根県や出雲市の審議会委員も委嘱されて、家庭の主婦から世の中に出て、痛感したのは「私は社会の動きに疎くなっているのでは」と感じていました。丁度その頃に、放送大学のパンフレットを見ましてその存在を知り、早速入学案内を取り寄せ



ましたが、内容からして無理かなーという思いがあり、やめました。次の年に再度入学案内を取り寄せました

が、この時も入学は見合わせました。そうして3年目、3回目の時にヤッと決断を下し、女性センター長の職も5年となり、平成13年に退職願いを出しました。

一入学に際し、最初にコース選択をされた理由はどうしてでしたか

増原: 入学したコースは「生活と福祉」にしました。次に履修したのは「人間と文化」コースです。これは教養を目的としました。島内裕子先生という素晴らしい先生もおられたので。その他の「情報」とか「社会と産業」などは、この歳では無理だなと思い、3番目の学びとして修士課程へ入学したのは、そういう理由からです。

一修士課程の選択プログラムはなんでしたか

増原: 修士課程では「国文・歴史」関係を履修しました。「人文プログラム」では11科目ですから、計22単位取得しました。修士の本科生は英語と自分の目指すテーマの論文とがありますので、本科生への入学は無理だと思い、選科生として学びました。

一出雲市は市長が民間出ですから

増原: 出雲市は市長が民間から就任されていて、改革派と言われていましたが、〇〇審議会とか〇〇検討委員会とか、いろいろありましたけど、女性は一人とか、初めての方とか、当時はそういう状況で、女性の進出というのは遅れておりました。先ごろ女性センターの方とお話をしましたが、私の時代と今日でも状況はそんなに変わっていないみたいです。

一初めて出雲市の行政に関わられたのは

増原: 岩国哲人氏が市長に就任された平成元年のことです。まず出雲市文化伝承館の立ち上げに委員として参加して、雲南の旧家や類似施設を実地に回って見学しました。これは私自身とても勉強になりましたね。開館記念の展覧会には天下の名碗と呼ばれる「喜左衛門井戸」が展覧されました。

一出雲市高齢者保健福祉計画策定協議会にも、委員として参画されたとか

増原: 今88歳になって、介護保険を利用していますが、随分昔の話ですけど昭和32年に22歳で結婚した直後から、舅を看病する姑さんのお手

伝いを20年間にわたって、3人の子育てと同時進行で続けました。

当時は介護施設など全くなくて、家族で看取るしかなく大変でした。後で聞くところで、介護の経験者として協議会の委員として委嘱されたとのことで、自分が関わったこの制度に、今自分が支えられていることを思うと、不思議な感慨を覚えます。

一島根県からも委員に要請されたのは

増原: 島根県の女性政策の一つとして「しまね女性の翼」として、女性海外派遣事業があり、団長としてアメリカとカナダを訪問して、「高齢者福祉」「女性の社会参加」「環境保全」の3つのテーマで見分を広め、帰国してからも、



みんながそれぞれ活躍の場を広げています。知らない現地へ足を運んで、実際に目で見て、耳で聞いて、口で味わって、肌で感じる事がとても大切であると実感し、その後の人生にとっても影響しました。

一さらに米国のスタンフォード大学を見学されたキッカケはどんな理由でしたか

増原: 出雲市とカリフォルニア州サンタクララ市とが姉妹都市を結んでいて、その訪問団ということで行きました。大学の建物内へは入れませんでしたが、兎に角広大なキャンパス内に植わった木の上を、リスが走り飛び回っている光景が、今でも忘れられません。そのキャンパスの向こうには教会が見えるんです。あゝ素敵だなという、そんな思い出は忘れられません。

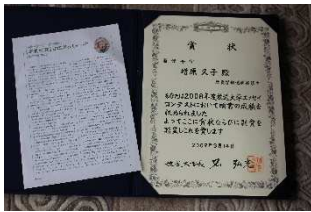
一放送大学エッセイコンテスト最優秀賞に輝かれたのは



増原: 「卒業研究はひろがった」というテーマで、賞金は3万円の図書券をいただきました。私最優秀賞の何が良かったかと思ひますが、私は当時「少子化」というのを問題意識として持っていました。学習センターへは当時一畑電車で行っており、その時に若い男性の方でしたが、『スウェーデンはなぜ少子化国家にならなかったのか』という本を読んでおられるのが目に入りまして、その時に「アア私の卒業研究のテーマはコレにしよう」という思いが閃きました。

一卒業研究はひろがったというテーマで、賞金は3万円の図書券をいただきました。私最優秀賞の何が良かったかと思ひますが、私は当時「少子化」というのを問題意識として持っていました。学習センターへは当時一畑電車で行っており、その時に若い男性の方でしたが、『スウェーデンはなぜ少子化国家にならなかったのか』という本を読んでおられるのが目に入りまして、その時に「アア私の卒業研究のテーマはコレにしよう」という思いが閃きました。

一卒業研究はひろがったというテーマで、賞金は3万円の図書券をいただきました。私最優秀賞の何が良かったかと思ひますが、私は当時「少子化」というのを問題意識として持っていました。学習センターへは当時一畑電車で行っており、その時に若い男性の方でしたが、『スウェーデンはなぜ少子化国家にならなかったのか』という本を読んでおられるのが目に入りまして、その時に「アア私の卒業研究のテーマはコレにしよう」という思いが閃きました。

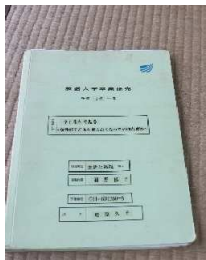


(エッセイコンセント表彰状)

千葉の放送大学本部での発表会の時には、当時私はパワーポイントが使えなかったので口頭で行いました。他の人はパワーポイントで報告されていたので、帰ってから習い、学習センターでの発表の時にはパワーポイントで行いました。

—「全国友の会」についてお聞かせください

増原:「全国友の会」は、クリスチャンの羽仁もと子さんが創設した『婦人之友』の愛読者の会です。これは衣食住の合理化を基本に家計簿とか、環境問題とかを学び実践をする全国規模の会です。私が22歳で結婚をした時に入会しましたから、66年目ぐらいになり、現役で活動している会員の中では最高齢になります。あれこれといろいろ経験をしましたが、結局今残っているのは、「放送大学」と「全国友の会」だけになりました。



—学生サークル「作文の時間」に参加され、毎回発表された資料を基に、文集にまとめられておられるとか

増原:これは元所長足立悦男先生の「作文の時間」にまとめられた文集ですけど、これが第3集目になります。(増原さんはそう言って、作文の時間にまとめられた作文集を示された)。

一同窓会設立から副会長を4年間され、会の発展に寄与されましたが、ご感想は？

増原:会長さんに対しては、私は思ったことを隠さずに申し上げるものですから、ご迷惑をおかけしたことと思っています。同窓会の会員数が多くなるとよいのですが。

—卒業者全員には、入会の案内を送って勧誘していきまして、授与式に出席された方には、一人ひとりに直接呼びかけています。学生の質が変わって大学への郷愁がないのでしょうか。同窓会も役員の高齢化が問題です。最後に同窓会へ期待することをお伺いしたい。

増原:この会の活動がますます盛んになってほしいですね。私は同窓会員であると同時に大学院の選科生として学んでいます。今は「放送大学23年生」ですよ。平成13年の入学ですからね。

—取材を終えて—

増原さんは沢山の方と交流され、本当に豊かな人生経験をお持ちの方でした。増原さんが学ぶこと

と同時に、たゆまぬ「社会貢献」に尽くしてこられたからであると思っています。

また高校時代の成績は、常にトップの座を占めての才媛であったこと。殊に1987年から5期、島根県知事を務められたS氏とトップの座を競われたということ、コレは勿論ご本人の口からは出なかったが、私たち多くの同窓会員が知っている事実です。

今回取材をさせていただいて、改めてこれだけの活動や実績がある人が私たち放送大学島根同窓会に居られるということに、大きな誇りを感じています。

最後にこんな逸話を紹介します。

昔あるところに賢い王子が居た。欲しい物は何でも手に入れたし、何一つ叶わぬことはなかった。しかし王子はいつも気難しい顔をして幸福ではなかった。ある日王様は王子に尋ねた。「お前の欲しいものは何でも手に入るし、なんでも叶わぬことはないのに、なぜそんなに気難しい顔をして幸福ではないのかね」。すると王子は「私には別に秘密や悩みなどはありませんが、人生に輝くような喜びがどうしても感じられないのです」と言うのであった。王様は「王子を幸福にした者には望みしだいの褒美を出す」と国中に布令を出した。ある日一人の男が来て、「王子様を幸福にして差し上げます」と応えた。そして男は王子に一枚の紙を渡してこう言った。「王子様この紙を暗室に持って行き蠟燭の火であぶり出してお読みください」そう言うと男は消えた。王子は言われたままにその紙を暗室に持って行き、蠟燭の火であぶり出すと次のような文字が現れた。「毎日一度は必ず誰かに親切にして、人のためになることをせよ」。王子はその教えに従って、その日から幸福な人生となった。

以前に英語の教師も務められ、現在も放送大学ゼミの英語教室にも通っておられる増原さんが、「修士の本科生に入るには、英語の試験がありますから」・「修士の本科生に入るにはテーマ論文の選考もありますから」と語られる姿に、何と謙虚な方であることヨ！エッセイコンテストでの最優秀賞をとられていながら、論文もまた自分には無理だと話される増原さんのその謙虚なお人柄を、益々お慕い申しあげたことでした。



地区会員の近況報告 (鳥取西部地域 1)

卒業後の私



米子市 門脇ちおり

3年計画を立て、予定通りに放送大学生生活と福祉コースを卒業し教養学、そして看護学の学士を取得しました。その間、卒業旅行として同窓会の研修旅行や渋谷での卒業式にも出席しました。大学生活を満喫しました。知識を身に着けることの意義、大切さもわかりました。

卒業後は大学院の生活健康科学プログラムで、選科生として科目を学習しています。大学院の科目は、仕事上役に立つものばかりです。一つ一つ知識を得ることが楽しく次はどの科目を学習しようかと考えます。ただ、大学の時のような数科目を同時には学習していません。前期・後期で2科目を着実に取得しています。

今後は、また大学に戻り、世界に目を向けていろいろな国の歴史を学びたいと思っています。仕事や家事、感染症などの制限がある中、実際に行かなくても知ることができるのがうれしいです。井の中の蛙のような自分が、外の世界を見に行くことができる思いがします。短くなってきた人生で、どれだけ知ることができるかと思うと欲張りになります。これからも、先輩の方々を見習い学習していきます。

卒業後の私

選科履修生 木下知義 (米子市)



2009年3月に最初の卒業、その後再入学を繰り返し2019年3月に全コースを終了しました。現在選科履修生として5年目、興味関心のあるもの2科目ずつを、例えば「認知症と生きる」「睡眠と健康」「死生学のフィールド」などが印象に残っています。根気、集中力の衰えは如何ともしがたく、学習スタイルの「わかる」が一番です。

放送大学での学びは自分の殻に合わせてずっと続けたいと思っています。

グラウンドゴルフで遊ぶ

ここ15年ばかりグラウンド・ゴルフをやっています。団地内の公園に立派なグラウンドがあり、毎日午前中はプレーをしています。

始めたきっかけはこうです。町内の環境美化グループの食事会の席上でグラウンド・ゴルフが話題になりました。その時はさして気にも留めていなかったのですが、あくる日のボランティア作業終了時に「さあーやらいぜ」と先輩、「お金の用意もしてないし」とグズグズ。「金ならわしが準備しようけん」と2人の先輩が両腕を抱えるようにしてスポーツ用品店に直行、道具一式揃いをお世話してくださった。

こんな親身な面倒を誰がしてくれるものか。爾来すっかりはまってしまった。数年は同好会の運営にも携わり、また各種大会に参加。入賞も数々経験してきました。運動には最適で、地域の人付き合いも複合的に広がることになりました。

卒業後の私

平成27年3月 生活と福祉
コース卒業 真栄 勉



43年務めた会社を5月末で定年退職しました。今まで私を支えてくれた会社の関係者、家族、放送大学の関係者に感謝します。

人生100年時代、定年後の人生をより充実して働き、生きがいがあるキャリアにするために新しい学びを開始します。

ポリテクセンター米子の体験会に参加しました。ハローワークのパンフレットには書いてない深い内容まで聴くことができ、今現在その訓練を受講されている生徒の雰囲気も知る事が出来てとても良かったです。

また、修了後の就職率、修了生の就職先など教えていただき参考になりました。

就業時間厳守(仕事前段取り、仕事後片づけ含む)、年休取得義務化など、就業時間内を効率よく作業を進め、しかも品質異常、災害(怪我等)不可の絶対条件があります。間違いのない作業をスムーズに展開して、次工程に継続して渡すことが求められる。

高齢者の再就職はハードルが高く難しいですが、放送大学の学びを復習して活用します。会報たたら情報を共有し、放送大学卒業生として地域社会に貢献できるよう努力します。

生涯学習の道半ば、再び島根学習センターで学習することを楽しみにしています。よろしくお願いします。

卒業後の私

防災士 長谷川 工 (米子市)



皆さんお疲れ様です。「生活学入門」で始まった私の放送大学生活は、今も「動物の時間」として私の心の支えとなっています。

私「動物の時間」を何に使おうと思索したところ、ボランティアとして活動しようと思いました。

岡山県真備町・広島県呉安浦地区で活動しました。この経験を生かすために、地域の自主防災組織の会長を立候補して活動をしております。活動はまずは自助から始め、そして共助への活動の幅を広げていくことです。

自助の活動の中には、災害時に備えて取りそえる品物は？住宅用消火器の取り扱い、住宅火災報知器の必要性などです。

同窓会の皆さまにも、お話できる機会があれば嬉しく思います

学才の私が図らずも選任されました。大役の責務を果たすことが出来るか不安ですが、出来る範囲で務めさせていただきます。私の特技はいろいろな企画を立てることと、思い立ったらまず行動することです。宜しくお願いします。

理事に選任されて

竹下 孝子 (松江市)



2023年4月30日開催の第11回通常総会において、理事に選任されました竹下孝子です。

放送大学には永い年月籍を置きお世話になりました。同窓会には設立時より会員として行事に参加させていただきました。

10年という歳月を得て、思い出も多くあります。友達にもたくさん恵まれ仲良くして頂きました。今までとは変わり、責任ある役を仰せつかり、私に何が出来るかと考えますが、まずは健康で会議や行事に参加することが第1で、同窓会活動が楽しく、参加しやすいと思われる交流の場づくりに励みたいと考えます。

同窓会活動に出席し、あの人に会いたい、話をしたいと楽しい時を共有する場づくりになるよう望むところです。

近年はコロナ禍のため学習センターに足を運ぶことも少なく、顔を合わす機会が減り、以前とは様変わりしましたが、交流の場が増すような企画をし、同窓会活動の盛り上がり努めたいと考えます。

今後とも、同窓会の発展・継続を願い、微力ながら務めて参りますので、宜しくお願い致します。

～同窓会からのお知らせ～



新会員のご紹介

(2023年1月～2023年6)

2022年度第1学期卒業

◎生活と福祉コース 山根 誠さん(雲南市)

2022年度第2学期卒業

◎生活と福祉コース 三島俊行さん(松江市)

役員退任のご挨拶 ご苦勞様でした

前副会長 佐藤ひばり

新役員のご紹介

副会長に就任して



仙田悦子 (松江市)

この度第11回通常総会において、佐藤副会長の後任として、浅

この度副会長を退任させていただくことになりました。島根同窓会では各種行事やイベントに参加させていただき、会員のみなさとお会いし楽しく活動が出来ました。ありがとうございました。

以前、元所長の佐々先生が放送大学は「放送メディア」を主体とした学びが最大の特徴で、島

根学習センターはお互いに「向き合うこと」、「かわりあうこと」を基本でありたいと願っている。まさに其の通りです。今コロナが収束しつつあり、これらの事が出来るようになってと思っています。

竹下会長をはじめ各担当の役員の皆さまに支えていただき、任務を終えることが出来ました。今後は一会員として皆様と交流していきたいと思えます。本当にありがとうございました。

理事退任に寄せて

川上美里

平成25年同窓会設立時より理事を務めさせていただきました。当初は仕事を理由に諸行事や研修旅行などに参加できないこともありましたが、先輩理事の皆様との出会いがうれしくて有難くてセンターに通いました。

理事としての活動は入学説明会のお手伝いや卒業式、卒業論文報告会、研修旅行、月1の英語学習など、講演への参加をすることでした。時代に即した学びをすることで学んだ知識を利活用してたくさんの思い出ができました。

山程ある思い出の中で一番は矢掛町の街並み散策研修旅行でした。行きのバスの中からは至る所に大水害の爪痕が残り、災害の恐ろしさを目の当たりにして心が痛みました。矢掛本陣では篤姫様の休息の間などを見学し、帰りには洞松寺専門僧堂に立ち寄り、そこで寺町の曹洞宗の方が修行されているところにまたとない出会いがありました。

約3年コロナの流行のために外出を控える生活が続きましたが、やっと5月頃より、外出が増え、また外食に行けるようになりました。会議や講演も対面で行えるようになりました。やはりアイコンタクトを取りながら人の気配を感じてこそ気づくものがあるのだと思いました。どうか放送大学島根同窓会が更に発展しますことをお祈りいたします。拙い理事でしたが理事を引き受けたことで多くの出会いと学びがありました。

本当にありがとうございました。

理事退任にあたって

安井 多喜恵

竹下会長から「放送大学同窓会の役員になってほしい」と、同窓会のお手伝いを突然依頼された

のは多分6年ほど前のことだったと思う。唐突でありとても私にはできないとお断りしたが、会長の熱心なお誘いに結局何もできないのに引き受けた役員であった。その後は会長がすべてをフォローして下さりいつも頭が下がる思いで過ごしていた。会長始め役員になられた方々は勉学意識が高く、何度も再入学をされ常に修了を重ねられた。私とはとにかく「大学卒業」を目的とした以上のことは考えもしていなかった。

定年退職し、やっと私的に空き時間が持てたことで、とにかく大学の勉強はしておかないと、という気持ちで入学したが、周囲の方々の勉学意識の高さに圧倒されてしまった。そして卒業を迎え、そんな中でとても役員などできないとは思いつつも、会長の熱意についに引き受けて今日まで来た。

その後、放送大学では卒業してからも周囲の温かいご厚情を受けることができ、さらに役員の方々の衰えない学習意欲からくる、同窓会発展をいつも学生生活の基盤とされている姿に感服の気持ちを抱いている。同窓会の役員の方々の「同窓会の灯を消さない」という思いは、その活動から常に竹下会長をはじめ他の役員の方々の行動力である。

放送大学に寄せる信頼は、素晴らしい教授陣や、開始早期からオンライン授業が可能であったために、より開かれた国民のための大学であるからだ。学びたい力を持続させ意思のある人たちの意欲の火を消してはいけない、そのためには国家支援の国民のための受講しやすい教育環境を存続させなければいけない。その思いの根本は一人ひとりの個人の生き様を活かすため、「繋がる同窓会」は堅持しなければならないことだ。

今後の放送大学の発展は各地の同窓会の発展と全国の同窓会連携なしにはえられない。島根の同窓会からさまざまなアイデアが生まれることを祈り退任の挨拶としたい。

私は大学で学んだ後、次に出来る事として、怪我等で傷んだ足がまだ車の運転できる間に自宅でできるボランティアはこれだと、音訳講習会に出雲から松江まで通った。大学での学びが「やればできる」という気持ちを奮い立たせてくれ、8か月20回の講習会に松江まで通うことができたのも、頑張る放送大学生さんの後ろ姿があったからこそである。今後は自分にできるボランティア活動に、多くの学生の方の勉学に対する情熱を肌で感じながら…。

理事退任にあたって

板倉 直之

私が放送大学を卒業したのが2011年、卒業した当時は、まさか卒業後も放送大学と関わることになるとは思ってもいませんでした。

記憶は定かではありませんが2012年の夏、私が職場で残業をしていた時に、竹下会長から突然連絡をいただき、同窓会設立の協力をお願いされたことは今でも覚えています。

以降、同窓会設立のための話し合いに何度も参加させていただき、当時20代の私には初めてのことだらけでとてもいい勉強をさせて頂いたと思っています。若輩者の私を役員として受け入れてくれた竹下会長をはじめ他の役員の皆様との出会いにとっても感謝しています。この度、私は役員を退くことになりましたが、今後の皆様の活躍と島根同窓会の活動を一会員として応援しています。ありがとうございました。

放送大学認可学生団体

『古文書を読む会』がスタート



佐々前
所長から
かねて学
生団体設
立へ同窓

会に協力の依頼があり、役員会にて検討し、2022年9月より学生団体結成についてチラシにてご案内したところ、認可申請の目安とされる構成会員が10人(内学士が5人以上)を超えたので、4月30日大学本部に申請しました。

申請内容は、①学生団体結成願、②構成員名簿、③年間活動計画書、④年間活動費収支計画書、⑤規約の5点を申請した結果、6月1日付にて学生団体設立許可書が学長より届き、正式に6月21日よりスタートしました。

講師による解説は、「松江藩郡奉行所文書」が1750年頃から1883年までの129の民事訴訟案件の記録が現存し、訴訟の始まりから終了までの文書は全国的に貴重であること。

第1回は「田部長右衛門山論御裁許之儀願立候書面」から『乍恐御歎申上御事』から開始。

会費は月額500円(月1回)、第2回は7月12日(水)、第3回は8月23日(水)で、いずれも13:30~15:30迄学習センターにて開催を予定しています。10月以降はセンターと協議中。

◆同窓会の活動日誌◆

(2023年1月~2023年6月)

【1月度】

- 5日(木) 広報部会(Zoom)会報校正
- 13日(金) “たたら” 発送準備作業
- 17日(火) “たたら” 発送(郵便局)

【2月度】

- 4日(土) 第3回役員会(Zoom)
- 25日(土) 学位記授与式打ち合わせ
- 26日(日) 第1回文化部会

【3月度】

- 9日(木) 総会記念講演講師打ち合わせ
- 10日(金) 感謝状贈呈打ち合わせ
- 15日(水) 交流会開催ホテル打ち合わせ
- 18日(土) 第4回役員会開催
- 22日(水) 卒業者用資料作成準備
- 26日(日) 1学期学位記授与式
- 26日(日) 卒業を祝う会
- 26日(日) アカデミック・ガウン撮影会

【4月度】

- 4日(火) 撮影者森氏と打ち合わせ
- 5日(火) 第5回役員会開催
- 8日(土) 22年度決算資料作成作業
- 9日(日) 22年度会計監査
- 11日(火) 第11回通常総会議案書印刷
- 12日(水) 総会資料製本、発送作業
- 12日(水) 総会開催案内状発送
- 30日(日) 第11回通常総会開催

【5月度】

- 7日(日) 文化部参加の依頼状発送
- 14日(日) 第1回役員会開催
- 19日(金) 第2回文化部会
- 20日(土) 連合会第26回総会 Zoom
- 22日(月) 第1回広報部会(Zoom)
- 24日(水) 第1回古文書を読む会開催

【6月度】

- 4日(日) 連合会助成金申請説明会
- 6日(火) 中四国交流会現地実行委員会
- 9日(金) 名誉学生山根氏会報取材
- 14日(水) 地域活動増原氏会報取材
- 21日(水) 第2回古文書を読む会開催
- 24日(土) 第3回文化部会

同窓会 当面の行事案内

2023年度第1学期学位記授与式開催のご案内

日時 2023年9月24日(日)10:40~11:40 (共催:島根同窓会)
会場 島根学習センター 3階 「第1講義室」(予定)
対象者 2023年度第1学期の卒業要件を満たした学生・修士修了者の皆さん
※卒業を祝福するため、会員のご参加をお願いします。

2023年度第1学期卒業を祝う会開催のご案内

日時 2023年9月24日(日)11:40~13:00 (共催:島根学習センター)
会場 島根学習センター 4階 「第2講義室」(予定)
対象者 2023年度第1学期の卒業要件を満たした学生・修士修了者の皆さん
※卒業者の皆さんで希望される方に、アカデミック・ガウン着用で記念撮影を開催します。
ご希望の方は事前に同窓会長にご連絡をお願いします。
携帯番号 080-3056-0487
E-mail//yasutake@kfz.biglobe.ne.jp

第9回中国四国地区同窓会交流会開催のご案内

日時 2023年10月28日(土)13:00~29日(日)13:00まで
会場 サンラポーむらくも(松江市殿町369)
電話:0852-21-2670
参加者 交流会で中国四国の同窓会活動に関心のある方
※希望される方は事前に竹下同窓会長宛下記にご連絡をお願いします。
携帯番号 080-3056-0487
E-mail//yasutake@kfz.biglobe.ne.jp

～編集後記～

「末は博士か大臣か」子供の頃に聞かされた偉い人とは、こんな人たちであった。そして博士とは、長いオーバーorマントのような服を着て、頭には四角い帽子を被って、その帽子からは長い房を垂らし、大学という難しい学校を出て何でも知っているエライ人だった。「アカデミックガウンを着て写真を撮る」という話を聞いたのは、3月18日の第4回役員会議のときであった。「嗚呼これはよい企画だな」と私は思った。苦節幾年、蛍雪の功あって大学を卒業したときの歓びは何年たっても忘れ難いものであろう。殊に放送大学で学ぶ人の多くは、学びたくても大学へ行かれなかった人。仕事を抱えながら、あるいは親の介護をしながら学ばれたそんな、人生の苦節や苦労を経験された人たちであり、大学を出るといふ憧れの気持ちは、人一倍大きなものがあったと思われる。放送大学卒業の証であるあの、アカデミックガウンを着て、タッセル(あれをタッセルと云うそうです)を垂らした角帽を被って「私の自分史の一頁」として遺しておくのは如何でしょうか。因みに角帽のあの紐、タッセルは卒業をする前までは右側に垂らし、卒業と同時に(卒業証書を受け取り、式典が終わると)ソレは左側にするそうです。(T)